

神奈川県立の博物館・美術館 令和6年度展覧会スケジュール

	金沢文庫	歴史博物館	生命の星・地球博物館
4	<p>3/22~5/19</p> <p>特別展「国宝文選集注といただきもの!？」 県立金沢文庫が新たに集めた資料、寄託されている資料を中心に紹介します。称名寺の名宝とともに、お楽しみください。</p>	<p>常設展(通年)</p>	<p>常設展(通年)</p>
5	<p>5/24~7/21</p> <p>企画展「江戸当世図上旅行」 江戸時代、全国には53もの関所があり、「関所破り」は死罪でした。自由な旅が難しかった庶民にとって、旅本や絵図の上での気ままな旅路は楽しかったに違いありません。本展示では、当文庫所蔵の刷り物をとおして、江戸時代の旅行の楽しみ方を追体験いたします。</p>	<p>4/27~6/30</p> <p>特別展「近代輸出漆器のダイナミズム—金子皓彦コレクションの世界—」 開港後、横浜からは多くの漆器が輸出されました。世界から人気を博し、海を渡って西洋の人々を魅了した日本の漆器。それは大きな家具から小さな箱まで多岐に渡ります。金子皓彦コレクションから、世界が求めた漆器の数々と、輸出木工芸の広がりを紹介します。</p>	<p>2/23~5/12</p> <p>企画展 「動物のくらしとかたち ~藪内正幸が描いた生態画の世界~」 動物たちのくらしやすんでいる環境などを紹介する「動物生態画」は、絵本や図鑑など広く利用されてきました。本展示では、藪内正幸氏により描かれた生態画を通して、動物たちのくらしぶりを剥製や写真と共に紹介します。</p>
6			
7	<p>7/26~9/23</p> <p>特別展「茶の湯以前-中世鎌倉の「茶」-」 鎌倉時代を生きた人びとが贈答し、愛飲した茶、鎌倉仏教、とくに密教儀礼の場で用いられた茶など、中世には多種多様な茶の用途や機能がありました。「茶の湯」成立以前の、日本中世の茶の歴史と文化の諸相を、ゆかりの文化財を通じてご紹介いたします。</p>	<p>8/10~10/6</p> <p>特別展「かながわへのまなざし」 開国前後の訪日外国人による滞在記、絵画、写真などを通じて、日本・かながわがどのように表現されて海外へ伝えられたのかを理解し、現代のグローバル化について考える機会を提供します。</p>	<p>7/20~9/16</p> <p>コレクション展 「おひろめ!—新しく博物館の仲間になったモノたち—」 新収蔵資料を展示し、収集活動の一端を紹介します。</p>
8			<p>7/13~11/4</p> <p>特別展 30周年記念特別展 「生命の星・地球博物館の これまでを資料で振り返る(仮称)」 生命の星・地球博物館は、今年度会館30周年を迎えます。そこで、博物館の遠い過去から開館までの道のりや、30年にわたる博物館活動を、これまで収集した資料や過去の特別展で紹介した資料などを用いて振り返ります。また、現在、博物館が抱えている課題や将来への展望も紹介します。</p>
9	<p>9/28~11/24</p> <p>特別展「久米田寺」 大阪府岸和田市の古刹・久米田寺は中世以来の絵画や古文書など貴重な資料を伝える寺院です。県立金沢文庫に隣接する横浜・称名寺から多くの僧侶が仏法を学びに訪れており、中世の両寺院には盛んな交流がありました。本展では、久米田寺と称名寺に伝来した資料や関連資料を一堂に集め、遠く離れたふたつの寺院の交流の歴史を解き明かします。</p>	<p>10/26~12/8</p> <p>特別展「仮面絢爛」 鎌倉をはじめ列島各地にのこされた中世仮面の数々を紹介することで、音楽文化の地域伝播と、地域社会のなかでの需要と変貌のあり様を文献史学・民俗学・美術史学という複数の目線から迫ります。</p>	
10			
11	<p>11/29~2/2</p> <p>特別展「運慶」 鎌倉時代初期に活躍した大仏師運慶の事績を紹介します。運慶作品を保管する唯一の公立博物館として平成23年以来、4回目の運慶展です。今回は北条政子をはじめ、運慶と鎌倉幕府の女性関係の造仏が、大変密接な関係であったことを明らかにしていきます。</p>	<p>11/9~12/22</p> <p>コレクション展 「本店本館創建 120周年記念 横浜正金銀行」 建物の魅力と、銀行員たちの姿について紹介します。</p>	
12			<p>12/21~1/13</p> <p>「2024年度 子ども自然科学作品展」 夏休みの自由研究や日頃から行っている調査研究の成果など、自然科学に関する小・中学生の研究作品を展示します。毎年、数多くの力作が寄せられ、作品の一つひとつに当館の学芸員のコメントが付けられます。他の児童・生徒の皆さんの研究の参考にもなります。</p>
1	<p>2/7~3/23</p> <p>特別展「武州富岡の古刹・慶珊寺」 武州富岡の古刹・慶珊寺には、足利尊氏などの武士の支援のもと、智感という僧侶が開版した『大般若経』が伝わっています。東京大学史料編纂所と県立金沢文庫はこの『大般若経』の共同研究を進めてきました。本展ではその研究成果をもとに、慶珊寺を中心とした富岡地域ゆかりの文化財をご紹介します。</p>	<p>1~3月 工事のため休館します</p>	
2			<p>2/22~5/11</p> <p>企画展 「すな ~ふしぎをみつけよう~(仮称)」 砂は、その土地によって異なる姿を見せる「大地のかけら」です。本企画展では砂の多様性、砂からわかる周辺の大地の特徴、博物館で砂を集める意味などについて紹介するほか、砂が持つさまざまな性質について実験展示などを通してわかりやすく説明します。</p>
3	<p>3/28~5/25 (予定)</p> <p>特別展「国宝—称名寺の美しき宝」(仮) 当文庫が収蔵する、国宝・重要文化財を中心とする称名寺の名宝を、一堂に会します。</p>		
5			
施設情報	<p>住所 〒236-0015 横浜市金沢区金沢町142 電話 045-701-9069 アクセス 京浜急行「金沢文庫」駅東口からバスまたは徒歩12分、またはシーサイドライン「海の公園南口」駅から徒歩10分 休館日 月曜日(祝祭日は開館) 年末年始 展示替期間 休館日の詳細は ホームページをご覧ください。</p>	<p>住所 〒231-0006 横浜市中区南仲通5-60 電話 045-201-0926 アクセス みなとみらい線「馬車道駅」5番出口から徒歩1分、JR根岸線「桜木町駅」新南口から徒歩5分、または市営地下鉄「関内駅」から徒歩5分 休館日 月曜日(祝祭日は開館) 年末年始 資料整理休館日 ホームページ等でご確認の上、ご来館ください。</p>	<p>住所 〒250-0031 小田原市入生田499 電話 0465-21-1515 アクセス 箱根登山鉄道「入生田(いりうだ)駅」から徒歩3分 休館日 月曜日(祝祭日は開館) 年末年始 館内整備日 燻蒸期間 8月は無休 休館日の詳細は ホームページをご覧ください。</p>

◆展覧会の名称及び日程は現時点での予定となります。最新の情報は各館のホームページ等でご確認ください。

神奈川県立の博物館・美術館 令和6年度展覧会スケジュール

	近代美術館 葉山	近代美術館 鎌倉別館
4	<p>~4/7</p> <p>芥川龍之介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅 虎雄</p>	<p>~4/7</p> <p>コレクション展 木茂(もくも)先生と負翼童子</p>
5	<p>4/20~30</p> <p>吉田克朗展—ものに、風景に、世界に触れる</p> <p>吉田克朗(よしだ・かつろう/1943-1999)は、1969年から物体を組み合わせた作品の制作を開始し、後に「もの派」と称される動向の先鞭を切った作家のひとりです。その後、写真を用いた版画に加え、転写などの実験的な手法を試みながら絵画表現を模索し、粉末黒鉛を手指でこすりつけて有機的な形象を描く(触)シリーズにより注目を集め、55歳で逝去しました。本展は制作ノートなどの資料も多数紹介し、吉田克朗の全貌に迫る初めての回顧展です。</p>	<p>4/20~6/30</p> <p>コレクション展 斎藤義重という起点—世界と交差する美術家たち</p> <p>「吉田克朗展」にあわせ、吉田克朗(よしだ・かつろう/1943-1999)が多摩美術大学で師事した美術家の斎藤義重(さいとう・よししげ[ぎじゅう]/1904-2001)を取り上げます。斎藤の作品とともに、今井俊満(いまい・としみつ/1928-2002)、佐藤敬(さとう・けい/1906-1978)、堂本尚郎(どうもと・ひさお/1928-2013)など、1960年代に斎藤と交流し世界で活躍した美術家の代表作を展覧します。また優れた美術教師でもあった斎藤の活動を、当館が所蔵する斎藤義重アーカイブの資料から紹介し、斎藤を起点に若手作家が世界へと飛躍した背景を辿ります。</p>
6		<p>~5/6</p> <p>小金沢健人×佐野繁次郎 ドローイング/シネマ</p>
7	<p>7/15~9/24</p> <p>石田尚志 絵と窓の間</p> <p>画家/映像作家の石田尚志(いしだ・たかし/1972-)は、自ら描いた絵を1コマずつ撮影するドローイング・アニメーションの手法により、画面の内に増殖する線や色の変化を映像作品に表現してきました。国内外での発表を重ね、近年は立体を含むインスタレーションへ、そしてキャンバス絵画へと新たな展開を見せています。2015年以後の大規模な個展となる本展では、初期作や会場制作を含めて、近作・新作を中心に石田尚志の仕事を展示します。</p>	<p>5/18~7/28</p> <p>鎌倉別館40周年記念 てあて・まもり・のこす 神奈川県立近代美術館の保存修復 コレクションをよい状態で保存し次の世代へ伝えることは、美術館の大切な役割のひとつです。私たちは作品を守る環境を整え、ときに手当てをしながら、未来に残す最善の方法を模索しアップデートを重ねてきました。本展では「てあて」「まもり」「のこす」の3つの言葉を手がかりに、作品の修復過程や修復に使う道具、作品を守りつつ展示するための工夫など、普段は見られない美術館の取り組みを紹介します。</p>
8		<p>8/10~10/20</p> <p>ゴヤ版画展</p> <p>鋭い眼差しで人間を描破し、近代画家の先駆と称されるフランシスコ・デ・ゴヤ(1746-1828)。スペインの宮廷画家として活躍するに飽き足らず、自らの創意を求めて版画に着手したのは40代後半、聴覚を失ってからのことです。本展ではゴヤの四大版画集のうち『気まぐれ』と『戦争の惨禍』を前後期に分けて全点紹介します。また、日本におけるゴヤの受容に関して、当館が開館以来開催してきたスペイン版画の展覧会を資料でたどります。</p>
9		<p>11/2~1/19</p> <p>たいせつなもの I 新収蔵作品展 2015~2019</p> <p>当館の新収蔵作品を「たいせつなもの」と題するシリーズで紹介いたします。今回は2015年度から2019年度に収蔵された作品から、収蔵後未公開の油彩画、彫刻、版画など約70点を展覧します。新しくコレクションに加わった作品の多様性をお楽しみください。</p>
10	<p>9/29~3/31</p> <p>施設改修のため展示休止</p> <p>葉山館は、令和6(2024)年9月末から翌年3月(予定)まで改修工事に伴い展示を休止します。庭園、美術図書室、レストラン、駐車場は、来館者の安全確保等のために閉鎖する日を除いて一部ご利用いただける期間があります。休館中のイベント、開館に関する更新情報や詳細はウェブサイトをご確認ください。</p>	
11		<p>2/1~4/13</p> <p>岩竹理恵+片岡純也×コレクション 重力と素材のための図鑑</p> <p>俵屋宗達(たわらや・そうたつ/1570-1643)作《狗子図》や《両界曼荼羅》など日本美術を中心に選定し、ユニットで活動する岩竹理恵+片岡純也(いわたけ・りえ、かたおか・じゅんや/共に1982-)の作品とあわせて展示することで、当館の所蔵作品に新たな光をあてる企画です。日常や自然の現象から着想を得たキネティック作品や、望遠鏡や顕微鏡の視覚を取り入れた絵画や版画作品をインスタレーションとして構成し、見立てや多視点といった、日本美術に見られる造形的な特色をユニークな手法で探究します。</p>
12		
1	<p>12/14~3/2</p> <p>栗林隆展</p> <p>栗林隆(くりばやし・たかし/1968-)は、インドネシアと日本を拠点とし、「境界」をテーマにドローイングやインスタレーション、映像などの多様なメディアを使いながら作品を国内外で発表するアーティストです。本プロジェクトは、当館の改修工事の期間に通常展示の行われない空間を用いて、作家が美術館の「内外」をつなぐ新作インスタレーションを発表します。</p>	
2		
3		
4		
施設情報	<p>住所 葉山町一色2208-1 電話 046-875-2800 アクセス JR横須賀線「逗子駅」東口、京浜急行「逗子・葉山駅」南口から京浜急行バス「逗11、12系統(海岸回り)」乗車、「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」下車 休館日 ・月曜日(祝日と振替休日は開館) ・年末年始 ・展示替期間 ※ホームページ等でご確認の上、ご来館ください。 開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)</p>	<p>住所 鎌倉市雪ノ下2-8-1 電話 0467-22-5000 アクセス JR横須賀線、江ノ島電鉄線「鎌倉駅」から徒歩15分 休館日 ・月曜日(祝日と振替休日は開館) ・年末年始 ・展示替期間 ※ホームページ等でご確認の上、ご来館ください。 開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)</p>

◆展覧会の名称及び日程は現時点での予定となります。最新の情報は各館のホームページ等でご確認ください。